

各教科のビッグアイデアとは何か:学習指導要領の改訂をめぐる議論を見据えて

家庭科のビッグアイデアとは

貴志 倫子 (福岡教育大学)

荒井 紀子 (福井大学名誉教授)



日本家庭科教育学会

The Japan Association of Home Economics Education

問い |

家庭科は何を中核とする教科で、どのようなビッグアイデアを析出可能か

報告の構成 |

1. 家庭科(Home Economics)の枠組みと理論的基盤
2. 家庭科のビッグアイデア (試案)

1. 家庭科(Home Economics)の枠組みと理論的基盤

諸外国の家庭科カリキュラム |

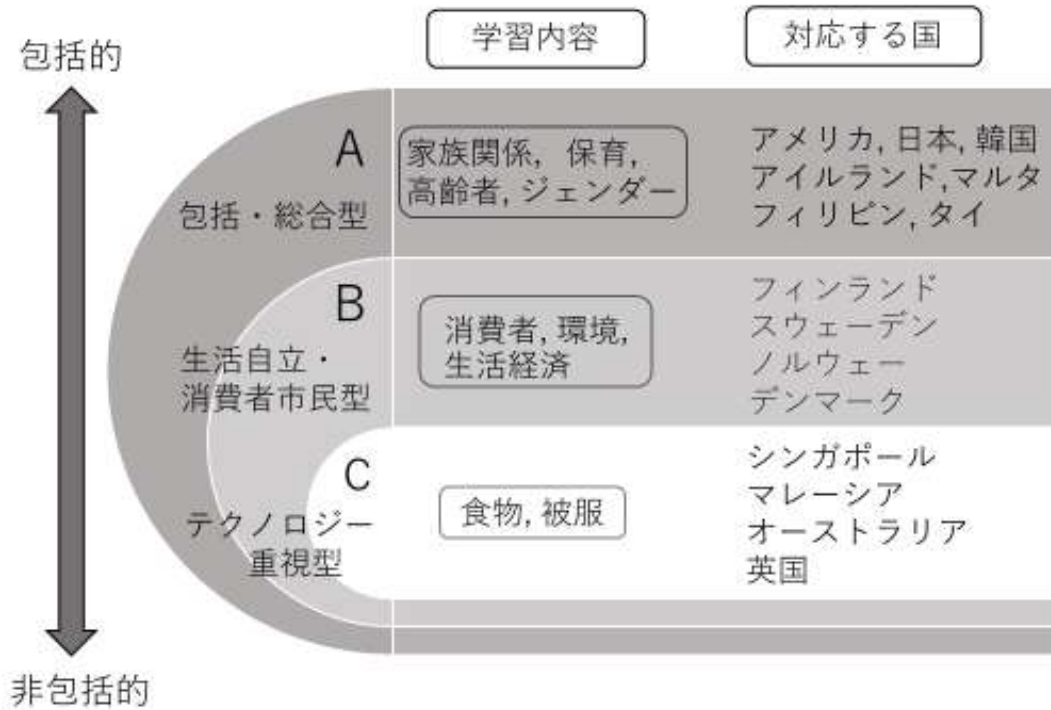
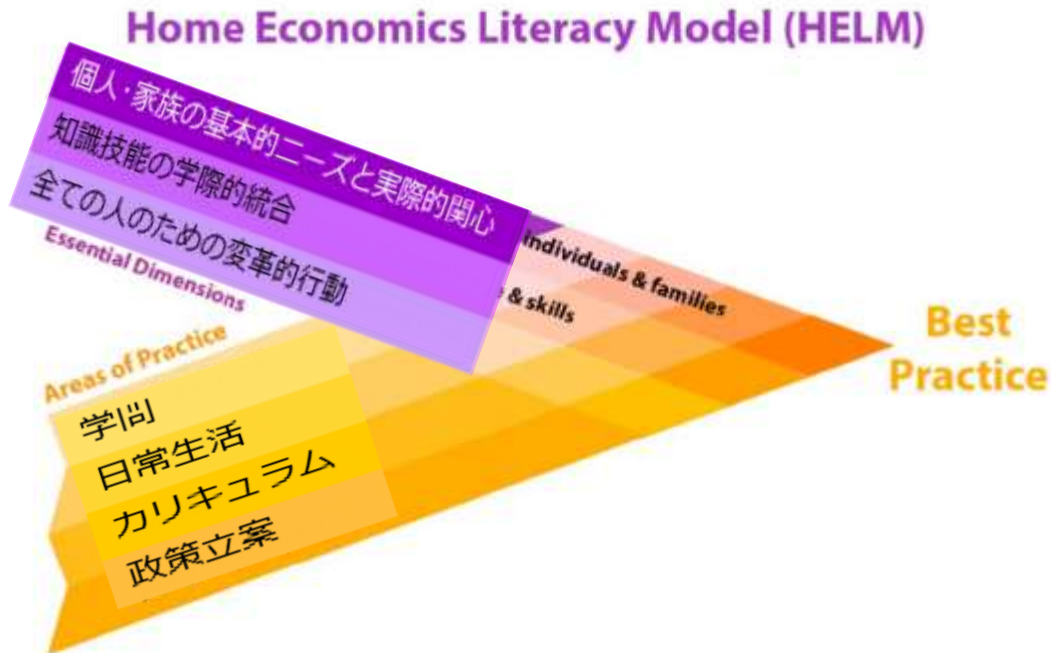


図1 学習内容の視野からみるカリキュラムの類型

- 特徴：
普通教育として包括的内容を含むものから，市民教育やキャリア・技術教育など重視される学習領域は多様
- 共通：
ヒューマンエコロジーや家政学（Home Economics)を基盤に生活の質の向上をめざし，「自らの資源や能力を見いだして伸ばし，個々の生活に生かせるよう，意思決定や行動を方向づけ，生活を営む準備を支援」（IFHE,2008,p.1），中核的実践（家政リテラシー）を共有（Pendergast,2023）

出典：荒井，貴志他(2022) 日本家庭科教育学会誌，64(4)，244-255よりp.252図1を転載

家政 (Home Economics)リテラシー |



Graphic Design: Joy Reynolds
Pendergast, D. (2015). *Home economics Literacy: A vision for the field*. Keynote address presented at: Action for family and consumer well being - Home economics literacy bringing skills to life. University of Malta - IFHE Conference, March 19-21, Malta.

Home economicsリテラシーモデル
(Pendergast, 2015)

本質的な側面

- **個人・家族の日常生活における基本的ニーズと関心**に焦点を当て、それらが個人・コミュニティ・社会・地球規模の各レベルで重要だと捉え、絶えず変化し課題が増大する環境でもウェルビーイングを高められるようにする。
- 複数の学問領域に由来する**知識、プロセス、実践的スキルを統合**し、学際的および超学際的な探究と適切なパラダイムを通して総合する。
- **ウェルビーイングを高めるために、批判的／変革的／解放的行為**の能力を示し、社会のあらゆる水準・領域において個人・家族・コミュニティのためにアドボカシー（権利擁護・政策提言）を行う力量を有する。(IFHE, 2008, p.2)

米国 [家族と消費科学(FCS)] (2018) |

- キャリア・技術教育(Career and Technical Education: CTE)の一科目
- ナショナルスタンダード

策定：全米FCS州教育行政官組織 (National Association of State Administrators of Family and Consumer Sciences : NASAFACS)

構成：16の学習領域,
包括的基準,
内容基準,
コンピテンシー,
プロセス質問

Area of Study 1.0 Career, Community and Family Connections

Comprehensive Standard Integrate multiple life roles and responsibilities in family, work, and community settings.

Content Standards

1.1 Analyze strategies to manage multiple roles and responsibilities (individual, family, career, community, and global).

:

Competencies

1.1.1 Summarize local and global policies, issues, and trends in workplace, community, and family dynamics that affect individuals and families.

:

米国 [家族と消費科学(FCS)] (2018) |

学習領域	包括的基準 (Comprehensive Standard)
1 キャリア・コミュニティ・家族関係	家族・地域・キャリアにおける複数の生活上の役割と責任を統合する
2 消費者・家族資源	人的・経済的・環境的資源に関する管理手法を、グローバルな文脈で評価する
6 家族	家族の重要性と家族が個人と社会のウェルビーイングに及ぼす影響を評価する
12 人間発達	人間の成長と発達に影響を与える要因を分析する
13 対人関係	家族、職場、地域社会において、敬意とケアリングをもった人間関係を築く
14 栄養と健康増進	個人および家族の健康増進につながる栄養と健康管理の実践を示す
15 子育て	子育ての役割と責任が、個人・家族・社会のウェルビーイングを高める効果を計画する
3 消費者サービス	消費者サービス分野でのキャリアに要求される知識・技能・実践を統合する
4 教育・幼児教育	幼児教育およびサービス分野でのキャリア 同上
5 施設管理, 修繕	施設管理や修繕に関するキャリア 同上
7 家族・人間サービス	家族・人間サービス分野のキャリア 同上
8 食品生産・サービス	食品生産・サービス分野のキャリア 同上
9 食品科学・栄養学・栄養	食品科学, 食品技術, 栄養学, および栄養分野のキャリア 同上
10 ホスピタリティ・観光・余暇活動	ホスピタリティ, 観光, レクリエーション分野のキャリア 同上
11 住宅・インテリアデザイン	住宅およびインテリアデザイン分野のキャリア 同上
16 繊維・ファッション・アパレル	繊維・アパレル分野のキャリア 同上

**生活の実践
問題に対する
行為の推論
(Reasoning for
action)**

ドイツ [栄養と消費者教育(EVB)] (2022) |

- 連邦消費者保護・食糧・農業省の資金提供による「一般教育学校におけるEVBの改革(Reform der Ernährungs- und Verbraucherbildung in Schulen : REVIS)」プロジェクト (Heseker et al., 2005) を踏襲, 改訂

- 教育目標

策定：プロジェクトメンバー（研究者）

構成：10の教育目標, コンピテンシー,
指導内容, 学習テーマ



➡ 教育目標 1 つあたり

➡ 4 つのコンピテンシー

➡ 4 つの指導内容

➡ 学習テーマ

図出典：REVIS2005(抜粋) ernährung im fokus 6- 06/06, https://media.sodis.de/com/fwu/FWU-05500670/material/REVIS_Uebersichtsartikel14552.pdf

ドイツ [食生活と消費者教育(EVB)] (2022) |

教育目標

1. 個人の生活を営むための生活基盤の保障について省察する
2. 生活設計にとっての資源の重要性を理解する
3. 生活の営みにとっての法の意義と機能を理解する
4. 生活のあり方,生活の営み方,およびライフスタイルを省察する
5. 生活の営みに対する消費行動・消費選択の意義を分析し,省察する
6. 食生活と健康との関連を理解し,省察する
7. 身体,食行動,アイデンティティの相互関係を理解する
8. 食行動に影響を与える要因を特定・分析し,それらが食経験の形成に与える意味を考察する
9. 消費者の意思決定における品質概念の意味を理解する
10. 調理と献立構成に関する文化と技術面において,安全かつ適切に行動する

10の目標の根拠(なぜ),
学習者にとっての利点と
追求される社会的目標(何
のために)の理論を出版



Konsum – Ernährung –
Gesundheit 2022

Schlegel-Matthies et.al (2022) Konsum – Ernährung – Gesundheit より発表者記

韓国 [実科(技術・家庭)] (2022) |

● 小・中学校共通教育課程

学習の内容領域

- (1) 人間発達と主体的な生活
- (2) 生活環境と持続可能な選択
- (3) 技術的問題解決と革新
- (4) 持続可能な技術と融合
- (5) デジタル社会と人工知能

核心概念

「発達」と「関係」

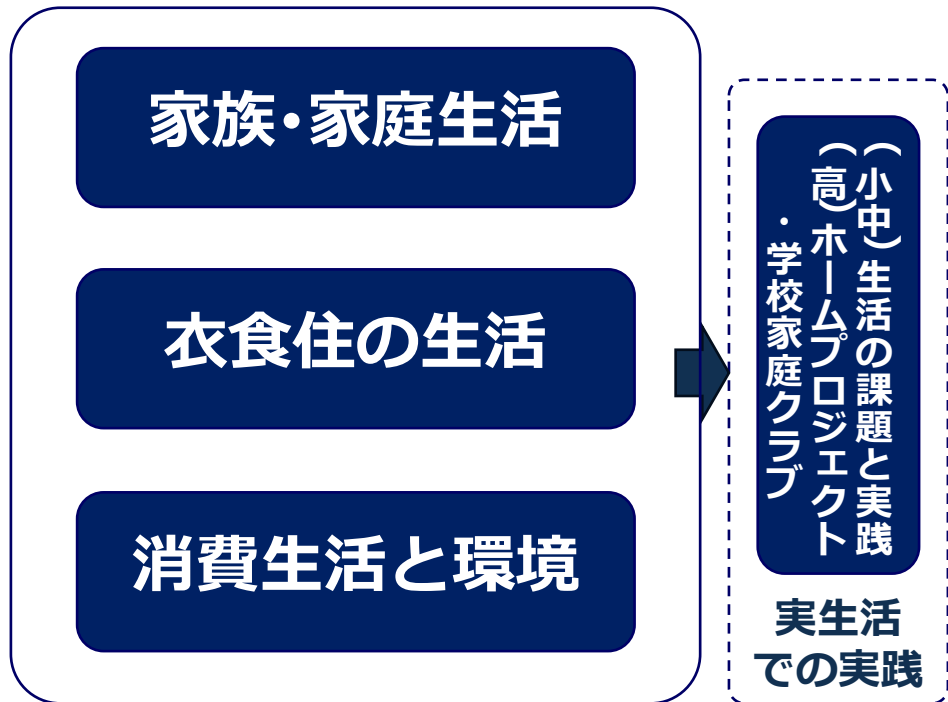
「管理」と「選択」

自身の日常生活を省察し、主体的な生活のための行動体系を構築できるよう設計（韓国教育部,2022,p.3）

韓国 [実科(技術・家庭)] (2022) |

内容領域	核心アイデア
(1) 人間発達と主体的な生活	<ul style="list-style-type: none">・ 人間発達への理解は、自立した生活を導き、他者との健全な関係を形成する基礎となる。・ 日常で直面する問題に対処できる能力は、個人及び家族の肯定的発達と幸福な日常生活を主体的に導くことができる。・ 日常生活で直面する相互尊重と協力的なコミュニケーションに基づく関係構築の経験は、健全な対人関係を拡大する礎となる。・ 家事と生活習慣は、変化する日常において個人及び家族の要求と問題を解決できるようにすると同時に、生活様式と進路を自ら開拓し成長するための基盤となる。
(2) 生活環境と持続可能な選択	<ul style="list-style-type: none">・ 生活の欲求と問題を解決する過程で人間が経験する生活資源は有限なので、個人と家族の管理能力を必要とする。・ 生活の基本条件として衣食住の生活遂行能力を備えることは、創造的で価値ある生活を設計し営むことのできる基礎となる。・ 変化する生活環境を安全かつ健康的に維持しようとする個人と家族の責任ある行動を通じて、消費者市民性を涵養することができる。・ 日常生活において持続可能な選択を志向することは、現在の生活共同体との共存とともに、未来世代の健康的な生活のための責任ある行動である。

日本の家庭科の枠組み



- 対象：
生活にかかわる人間関係と生活の営み
- 方法：
問題発見/課題設定-計画-実践-評価・改善
- 目的：
ウェルビーイングを高め，持続可能な，
よりよい生活を主体的に創造できる力の育成

現行学習指導要領における家庭科学習内容の構造

家庭科教育で議論されてきた概念 | 日本家庭科教育学会編（1997-2025）の書籍・報告より

主要概念	書籍・企画
生活認識・技能の系統, 生活環境・文化の継承と創造, 共生とジェンダー平等, 科学と生活, 生活主体と客体	『家庭科の21世紀プラン』 (1997) 家政教育社
家庭科の総合性, 教科内領域横断性 ほか	『家庭科は面白い:家庭科から総合学習への提案』 (1999) ドメス出版
家庭科カリキュラムの編成原理, 生活主体形成, 実践的課題解決能力 ほか	『家庭科カリキュラムの研究』 (2001) 学会特別委員会報告書
生活課題の解決, 生活主体の発達, 家庭生活の社会化 ほか	『衣食住・家族の学びのリニューアル』 (2004) 明治図書
生活をつくる（作る・営る・創る）, 生活スキル, 安心・安全, ウェルビーイング, シティズンシップ	『生活をつくる家庭科』 (2007) ドメス出版
生活リテラシー, 生活の科学的認識, 生活技能・技術, 協力・協働・共生, 生活設計 ほか	『未来の生活をつくる』 (2019) 明治図書
市民性, ジェンダー, 多文化共生, 多様性と包摂, 持続可能性（SDGs） ほか	『家庭科教育研究が拓く地平』 (2024) 学文社
生活哲学, 生活主体, 生活実践, 生活の質, 生活認識, 自立・自律, 生涯発達, エンパワースメント, ケア ほか	『家庭科教育ハンドブック』 (2025) 丸善

2. 家庭科のビッグアイデア（試案）

家庭科のビッグアイデア析出方法 |

- 国内外の家庭科カリキュラムの理論的基盤に関する文献，日本家庭科教育学会が1990年代以降編さんした書籍，および学習指導要領解説等を参照し，家庭科の内容知，技能知，方法知にかかる概念を抽出
- 3～10項目の複数パターンを生成して，発表者2名の協議により集約
- 小中高カリキュラムにおける家庭科の包括的なビッグアイデアを表現
(各学校段階での系統整理が今後求められる)

家庭科におけるビッグアイデア（試案）

項目	家庭科のビッグアイデア（本質的理解）	家庭科の基盤となる概念
1.生活の営みのデザイン	生活を家族・衣食住・消費が連動する一つのシステムと捉え,有限な生活資源を吟味して,生活を工夫しデザインしていくことがウェルビーイングにつながる。	生活認識, 生活マネジメント, 生活資源, 生活設計, 生活の質, ウェルビーイング
2.共生と互恵的ケア	人は生涯を通じて家族や他者と相互に支え合う存在であり,日常生活で人・もの・環境をケアする力は,個人の安らぎと社会の安定を支え,平等と多様性を重んじる福祉社会の基盤となる。	生涯発達, 家族・家庭, 共生, ケア, ジェンダー平等, 多様性, 人権, 協力・協働, 福祉
3.生活の科学的・文化的構築	健康,快適で安全な衣食住の生活は,科学的根拠に基づいた知識・スキルの習得・活用や,生活文化への理解と批判的検討のもとで維持,構築される。	健康, 快適, 安全, 生活技術・技能, 生活スキル, 生活文化, 生活実践
4.持続可能な生活行動と社会参画	個人の消費選択やライフスタイルは,環境や社会の持続可能性とつながっており,私的領域の生活改善は,社会を持続可能で公正なものにする確かな実践である。	消費者市民, ライフスタイル, シティズンシップ, 生活改善, 持続可能な生活
5.生活の自立と主体的創造	生活は与えられるものではなく,自らの手で「つくる」ものであり,生活の課題を認識し,解決策を構想し実践する問題解決的な行動は,新たな生活の創造につながる。	自立・自律, 生活主体, 生活リテラシー, 問題/課題解決, 意思決定

家庭科のビッグアイデア（試案）の独自性 |

項目	家庭科のビッグアイデア（本質的理解）	他教科との主な違いの例
1.生活の営みのデザイン	生活を家族・衣食住・消費が連動する一つのシステムと捉え,有限な生活資源を吟味して,生活を工夫しデザインしていくことがウェルビーイングにつながる。	数学 は生活資源（お金や時間等）の数量的概念, 社会科 は経済活動の仕組みを扱い, 家庭科 は 自分と家族の生活 の視点での意思決定と管理を扱う。
2.共生と互恵的ケア	人は生涯を通じて家族や他者と相互に支え合う存在であり,日常生活で人・もの・環境をケアする力は,個人の安らぎと社会の安定を支え,平等と多様性を重んじる福祉社会の基盤となる。	道徳 は内面的な心情, 社会科 は福祉の制度や人権の基本原則を扱い, 家庭科 は福祉や人権の理念のもとに 具体的なケア行動 （育児・介護・家事）を通じた関係構築を扱う。
3.生活の科学的・文化的構築	健康,快適で安全な衣食住の生活は,科学的根拠に基づいた知識・スキルの習得・活用や,生活文化への理解と批判的検討のもとで維持,構築される。	理科 は自然界の法則を見いだして理解し, 家庭科 はその法則を,健康や快適さという 主観的・実用的な価値 のために応用・統合する。
4.持続可能な生活行動と社会参画	個人の消費選択やライフスタイルは,環境や社会の持続可能性とつながっており,私的領域の生活改善は,社会を持続可能で公正なものにする確かな実践である。	社会科 は社会の形成に参画する公民的資質を育み, 家庭科 は「自分の買い物が世界をどう変えるか」という 当事者としての行動変容 を促す。
5.生活の自立と主体的創造	生活は与えられるものではなく,自らの手で「つくる」ものであり,生活の課題を認識し,解決策を構想し実践する問題解決的な行動は,新たな生活の創造につながる。	図工・美術 は自己表現や美的価値を追求して創造し, 家庭科 は 日常の継続性・機能性・生存の質を維持・向上 させるための実践的な創造を扱う。

おわりに：学習指導要領改訂に向けて |

小・中・高等学校家庭科における領域の見直しのイメージ図（案）

第3回WG資料より

現状の課題等を踏まえつつ、家庭科として必要な概念の習得に繋がるよう、現在の小・中・高等学校における系統性の在り方を、各領域の系統性を高める方向で以下のとおり見直しはどうか

①「生活の基盤に関する事項」（生活を営む主体となる「人」に関する指導領域と生活を営む上での「営み方」（マネジメント）に関する指導領域）と「生活を構成する要素に関する事項」（衣食住に関する指導領域）の2つに分類

②生活を営む主体となる「人」に関する指導領域は「**家族・家庭生活（仮称）**」、生活を営む上での営み方（マネジメント）に関する指導領域は「**生活経営・消費生活（仮称）**」。なお、「消費者教育（金融経済教育含む）」は、現行の表記の在り方と同様に「生活経営」に併記

③「衣食住に関する指導領域」は、食育の重要性なども踏まえつつ、家政学の諸領域を参考に「**食生活（仮称）**」「**衣生活（仮称）**」「**住生活（仮称）**」の順の3領域

④家庭科の領域については、「生活の基盤に関する事項」の2領域の後、「生活を構成する要素に関する事項」の3領域

※小・中・高等学校の領域の正式な名称については、p.27・28を参照

※上記の図は、イメージであり各領域の分量・時数を示すものではない。

- 「家族・家庭生活(案)」 「生活経営・消費生活(案)」を生活基盤と構造化する家庭WG素案の妥当性
- 「衣食住の生活」の分割によるビッグアイデア拡散には留意
- 個の生活から社会をみるHome Economicsの包括的内容をもつ家庭科の枠組みは貴重で、防災、環境、ケアなど他教科との境界を架橋して生活実践につながり学習としての役割



ビッグアイデアの共有によりゴールを
ブレさせない授業の充実を期待

出所：令和8年1月28日 教育課程部会家庭ワーキンググループ
第4回資料p.5
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/114/siryo/mext_00004.html

引用文献

- 荒井紀子,貴志倫子,井元りえ他(2022)諸外国の家庭科カリキュラムの視点と構造-2010年代の教育改革を背景とした比較考察, 日本家庭科教育学会誌,64(4),244-255.
- 荒井紀子,貴志倫子(2025.7.13)ドイツ語圏諸国の家庭科カリキュラムの構成と特徴: ドイツのREVISカリキュラムを中心に, 日本家庭科教育学会第68大会口頭発表.
- Heseker, H, Beer, S, Heindl, I, Methfessel, B, Oepping, A, Schlegel-Matthies, K & Vohmann, C (2005). Reform der Ernährungs- und Verbraucherbildung in Schulen 2003–2005.
- IFHE(2008) Home Economics in the 21st Century, https://www.ifhe.org/fileadmin/user_upload/Publications/IFHE_Position_Paper_HE_21st_Century.pdf
- 韓国教育部(2022) 別冊10実科(技術・家庭)情報教育課程, <https://ncic.re.kr/>
- NASAFACS(2018) Family and Consumer Sciences National Standards 3.0
https://www.leadfcsed.org/uploads/1/8/3/9/18396981/national_standards_for_fcs.pdf?utm_source=chatgpt.com
- Pendergast, D., (2015) HELM - Home economics literacy model - A vision for the field, Journal of home economics, 54(1),2-6.
- Pendergast, D., (2023) What is “Knowledge” in Home Economics Education: The Concept of Home Economics Literacy Journal of the Japan Association of Home Economics Education 66(3),89-100.
- Schlegel-Matthies, K., Bartsch, S., Brandl, W., Methfessel, B. (2022) Konsum – Ernährung – Gesundheit, Verlag Barbara Budrich GmbH

参考文献 (コンソーシアム研究会報告2026.1.26の引用・参考文献)

- 荒井 紀子(1991)米国,家庭科カリキュラムにみる家族・保育学習(第1報): オハイオ州83年版“PRACTICAL ACTION”の理念と構造をめぐって, 日本教科教育学会誌 15 (1), 23-30.
- Duncan, J. (2023.7.19) Family & Consumer Sciences (HE) United States Update, College of Education, Purdue University
- 林未和子, 福田公子(1998)ブラウンの理論に基づく米国家庭科カリキュラムの解析:家庭に焦点を合わせたウィスコンシン州の事例, 日本家庭科教育学会誌 41 (3), 1-8.
- IFHE(2019)Achieving Sustainable Living for All: A Home Economics Perspective,
https://www.ifhe.org/fileadmin/user_upload/UN_statements/Overview_Home_Economics_and_SDGs_2019.pdf?utm_source=chatgpt.com
- 倉元綾子(1998)「家政学」(生活の科学)の定義の変遷, 鹿児島市立短期大学紀要, 49,13-24.
- 倉元綾子(2024)1970年代以降の家政学におけるヒューマン・エコロジーと人間エコシステム・モデル研究: Sue L.T. McGregorの論考を手がかりに, 西南大学紀要, 20(1), 1-12.
- Muller, H., Bartsch, S., (2024.12.18). HE Teacher Education in Germany: Past and future developments with special regards to subject-matter didactics. Faculty of Humanities and Educational Sciences, Institute of Vocational Education and Work Studies, Technische Universität Berlin
- 日本家政学会編(1988)新時代への家庭科教育, 東京書籍
- 日本家政学会編(2004)家政学事典, 朝倉書店.